

静岡県静岡市

「静岡市から働き方を変えよう!」ワーク・ライフ・バランス 日本一を目指して、人口減少対策に挑む

●取組のポイント

- ワーク・ライフ・バランスに取組む企業を増やし、そのアピールを通じて若年層の市外転出を抑制
- 毎年秋に開催される「大道芸ワールドカップ」等、市独自の地域資源と企業の年次有給休暇取得促進をコラボレーションさせ、仕事を休んで「まち」を歩けば、わくわくどきどきできる魅力的なまちの賑わいづくりを進めている
- 「静岡市から働き方を変える」をテーマに、ワーク・ライフ・バランスの一層の推進を図るため、「日本一のプレミアムフライデー」を目指した取組やテレワークの推進等を実施

1. 取組のきっかけ

- 現在、静岡市は若い人の大学進学等をきっかけとした市外転出の割合が高くなっている。ワーク・ライフ・バランスに取組む企業を増やし、そのアピールを通じて首都圏等学生のUターン就職率や、市内学生の地元就職率の向上等、人口増につながることを期待している。
- ワーク・ライフ・バランスは、企業にとって人材の確保、生産性の向上につながる重要な取組である。以前から取組んできた普及啓発に加え、様々な施策を打ち出し、「ワーク・ライフ・バランス日本一」を目指している。
- その取組の一つとして、平成 27 年に市では、国や県、市内企業と連携して「静岡市ワーク・ライフ・バランス検討プロジェクト」を立ち上げた。「ワーク・ライフ・バランス日本一」にオール静岡で取組む基盤が整備され、平成 28 年度から厚生労働省の「地域の特性を活かした休暇取得促進のための環境整備事業」に参加し、本格的な取組を進めている。

2. 取組内容

- 平成 28 年度は、年次有給休暇取得促進の広報活動を 8 月と 11 月の 2 回に分けて実施した。
- 市内では 8 月上旬に、清水みなと祭りを始め幾つかの祭りが行われる。また自然も豊かな地域のため、祭りの他、海水浴、キャンプなどに合わせて休暇を取って出かけてもらいたいと考え、夏季休暇や土日祝日と絡めて連続休暇になるように、8 月 8 日、9 日、10 日、19 日、22 日を年次有給休暇の候補として広報活動を行った。
- 11 月は毎年市内で開催している「大道芸ワールドカップ」に合わせて、広報活動を実施した。「大道芸ワールドカップ」は、世界中から大道芸のパフォーマーを呼んで開催するコンペティションで、他の自治体にはない貴重な地域資源である。平成 28 年度は 11 月 3 日から 6 日まで開催し、期間中の 4 日が金曜日のため年次有給休暇を取って「大道芸ワールドカップ」に行ってもらえるよう働きかけを行った。

●連絡会議の開催

- 取組の推進体制として、連絡会議を設置した。約 1 万 3 千人の会員を擁する地元商工会議所に加え、労働組合、経済団体、地元新聞社、そして学識経験者などを含めた構成とした。

●年次有給休暇取得促進の周知・啓発

- 企業向けの他、地元紙への広告の掲載、地元ラジオ等のメディアも活用して周知に取組んだ。加えて、駅、図書館、公民館といった場所でのポスター等の掲示も行い、年次有給休暇取得促進の啓発を行った。

●事業場訪問による働きかけ

- 労務管理の専門家とともに静岡市内 100 社を訪問し、年次有給休暇取得促進の働きかけを実施した。

●学生と企業が交流するシンポジウムの実施

- 地元企業者や学生に対し、ワーク・ライフ・バランスの基本的な考え方や重要性を理解してもらうことを目的に、「ワーク・ライフ・バランスシンポジウム」を開催した。
- 講演者には、企業人として、また父親としての視点を持つファザーリングジャパンの安藤氏を招き、ワーク・ライフ・バランスの基礎についてお話しいただいた。
- その後のパネルディスカッションでは、市内のワーク・ライフ・バランス先進企業や学生によるパネルディスカッションを開催し、取組事例について紹介いただいた。
- 講演会後に企業と学生が自由に意見交換できる交流会を開催し、100 名を超える学生が参加した。

学生と企業が交流するワーク・ライフ・バランスシンポジウム



ファザーリングジャパン安藤氏



会場の様子



ディスカッションの様子



交流会の様子

●アンケートの実施・提言

- 市内事業場と従業員を対象にアンケートを実施し、年次有給休暇の取得状況や本事業の効果・課題等を把握し、今後の年次有給休暇取得促進策等についてとりまとめを行った。

3. 取組の成果

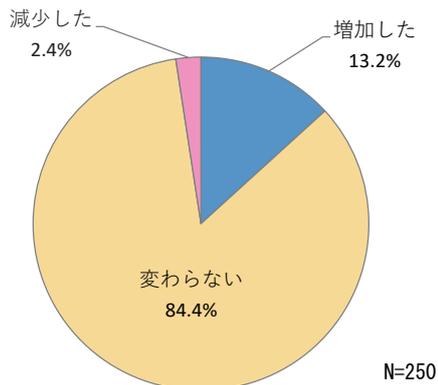
(1) 全体を通じて

- 訪問した事業場からは年次有給休暇の取得率が上がったとの声等が寄せられており、一定の成果はあったものと認識している。
- 学生、企業ともに関心の高い「ワーク・ライフ・バランス」をテーマとしたシンポジウムは、採用に関係なく意見交換できたことが有益だったとの意見が多くみられた。

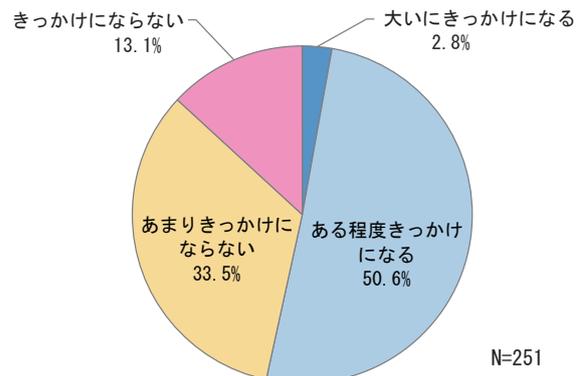
(2) アンケート結果から

- 平成 28 年 8 月の有給休暇取得日数が前年度よりも増加した人は、13.2%であった。
- 「地域の特性を活かした休暇取得促進のための環境整備事業」が年次有給休暇促進のきっかけとなった割合は、「大いにきっかけになる」と「ある程度きっかけになる」を合わせると 53.4%と過半数を超えている。

前年度と比較した平成28年8月の有給休暇取得日数の増減
(事業場向けアンケート)



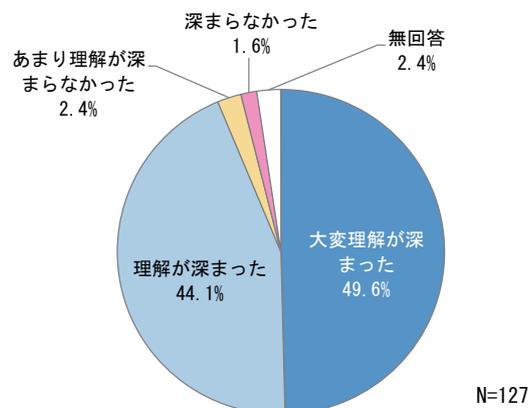
「地域の特性を活かした休暇取得促進のための環境整備事業」が
年次有給休暇促進のきっかけとなるか
(事業場向けアンケート)



(3) 「ワーク・ライフ・バランスシンポジウム」の参加者アンケートから

- 「ワーク・ライフ・バランスシンポジウム」を聴講して、ワーク・ライフ・バランスへの理解が深まった割合は、「大変理解が深まった」と「理解が深まった」を合わせると 93.7%であった。

ワーク・ライフ・バランス・シンポジウムを聴講して
ワーク・ライフ・バランスへの理解が深まったか
(シンポジウム参加者向け)



4. 平成 29 年度の予定

(1) 地域の特性を活かした休暇取得促進のための環境整備事業

- 平成 29 年度は、前年度同様、年次有給休暇取得促進の広報活動を 8 月と 11 月の 2 回に分けて行うこととし、下記の取組を実施する予定である。



平成 29 年度ポスター（前期）



平成 29 年度ポスター（後期）

●取組状況の継続的把握を意識した事業場訪問による働きかけ

- 労務管理の専門家とともに静岡市内 100 社を訪問し、年次有給休暇取得促進の働きかけを行うが、取組状況を継続的に把握するために、内 50 社は昨年度と同じ事業場を訪問する予定である。

●周知用リーフレットでの休暇活用の提案

- 昨年度の事業場訪問等を通じて、「年次有給休暇を取得して、何をしてもいいかわからない」といった声が寄せられたことから、周知用リーフレットのデザインを見直し、地域活動への参加や地元観光スポットの紹介を行い、休暇活用の提案を行うようにする。また、事業主と従業員で訴求するポイントが異なることから、事業主向けと従業員向けの 2 種類のリーフレットを作成し、配布する。

●学生と企業が交流するシンポジウムの充実

- 昨年度好評を博した、学生と企業が交流する「ワーク・ライフ・バランスシンポジウム」の時間を延長し、充実を図る予定である。

|| (2) プレミアムフライデー

- 「静岡市から働き方を変える」をテーマに、ワーク・ライフ・バランスの一層の推進を図るため、「日本一のプレミアムフライデー」を目指した取組を進める。経済団体、商業者、まちづくり団体、文化団体、静岡市等の官民が連携したオール静岡体制で、年度中に 300 社の参加を目標に掲げている。実施にあたっては、毎月テーマを設定（「暑い夏を楽しもう」（7 月）、「夕涼みを楽しもう」（8 月）、「食欲を楽しもう」（9 月））し、盛り上げを図っている。

|| (3) テレワークの推進

- 「静岡市から働き方を変える 第 2 弾」として、テレワークを推進することで、移住の最大のネックである仕事の問題を解消し、移住をより一層推進させる取組を進める。具体的には、テレワーク・デー（7 月 24 日）に、首都圏の IT 企業と連携し、IT 企業の社員が、市役所会議室でテレワークのトライアル実施を行った。併せて、市職員もサテライト・オフィス勤務を試験的に実施。9 月にも 3 週間に渡り実証実験を実施し、これら実験から得られた知見を基にテレワークの推進による移住を促進させていく予定である。

5. 今後の課題

- 静岡市は、市内約 37,000 事業所のうち、従業員 30 人以下の事業所が 90%以上を占めている。特に小規模な事業所への訪問を通じた啓発活動などを通じて、企業経営者の意識改革を進め、ワーク・ライフ・バランスの取組を周知し、根付かせるかが課題である。
- 今後も、若者にとって関心の高い「ワーク・ライフ・バランス」を「まちの賑わいづくり」「豊かな時間の過ごし方・楽しみ方」等と効果的に組み合わせ、静岡市から働き方を変え、「ワーク・ライフ・バランス日本一」を目指して、雇用創出や移住定住促進など人口減少対策を進める。

【事例照会先】静岡市 企画局 企画課

〒420-8602 静岡県静岡市葵区追手町 5 番 1 号 直通電話：054-221-1240

URL：http://www.city.shizuoka.jp/